

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「明るく、たくましく、心爽やかな」国際社会に貢献できる人材を育成し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。 —Well-being な学校づくりを推進しすべての子供たちの可能性を最大限に引き出します— 1. 夢・目標を主体的に見つけ、自己実現と豊かな社会創造に向けて自律的に行動できる生徒を育てる。 2. 知的好奇心が旺盛であり、自ら学び考え、自己の可能性を広げるため粘り強くチャレンジする生徒を育てる。 3. 地域や国際社会の一員としての自覚の下、自らの義務と責任を認識し、集団に貢献する意欲のある生徒を育てる。 4. 他者を思いやり、互いを尊重し、協働にて行動できる生徒を育てる。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成 (1) 「主体的・対話的・深い学び」を追究し、新しい時代に対応できる「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の育成に取り組む。 ア 学校としての「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」について、全教員で共有し、授業力を軸にその実現へ向かう。 イ 学力向上委員会が主体となり相互授業観察、研究授業、勉強会等の計画的な実施、教員個々における授業アンケートの効果的活用等、授業改善に組織的に取り組む。又、ICT 機器を組織的、効果的に活用し個別最適な学びと協同的な学び、一斉学習の併存的な展開、音読を各教科・科目で実践し読解力を高める等、学びの深化を図る。 ※学校教育自己診断（生徒）における授業満足度の肯定的回答（R4 -82%、R5 -82.3%、R6 -78%）を令和9年度まで75%以上を維持する。 ウ 学習指導要領に対応した適切で特色のある教育課程を追究する。
2. 夢と希望を持ち、自己実現と豊かな社会創造に積極的に取り組む生徒の育成 (1) 生徒の希望する進路の実現に向けて、計画的な進路指導体制を確立する。 ア 3年間を通した継続的かつ計画的な進路指導に取り組み、大学・短大、専門学校および地域や福祉・労働関係機関等、多様な主体と連携を深め実践的なキャリア教育を推進する。 イ 3年間を通した計画的な学習指導等の実施により、社会的、職業的自立に向け必要な能力や態度を育成する。 ※実力考査の結果の分析を行い、学習支援クラウドサービスなどを活用し継続的な進路指導を行う。 ※学校教育自己診断（生徒）における進路に関する情報提供の肯定的回答（R4 -92%、R5 -91.2%、R6 -89%）を令和9年度まで85%以上を維持する。 (2) 教育活動全体を通して探究的な学びを追究し、問題発見・解決能力や論理的思考力、表現力、協働性等を向上させる機会を確保し、キャリア発達を促す。 (3) グローバル人材の育成 ア 関係機関との連携や海外の学校との友好交流、SDGs の視点を踏まえた授業やHR、探究的な学び、特別活動等の実施を奨励すると共に、英語運用能力の向上を図るなど、国際理解教育を推進する。 ※学校教育自己診断（生徒）における「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答を（R4 -82%、R5 -82 %、R6 -84%）令和9年度まで80%以上を維持する。
3. 安全安心で魅力のある学校づくり (1) 規範意識を醸成する等、個々の生徒への発達支援的生徒指導体制を充実させ社会の一員としての自覚を促す。 ア 全教育活動を通して、生徒理解と教員間での情報共有に努め、信頼関係に基づく一致協力した指導、支援を行う。 イ 多様な主体との連携にてOSAKA CYCLE 5つのCを推進する等、校内支援体制を充実させ、すべての生徒の学びと育ちを支援する。 ウ 互いの違いを認め合い、「ともに学び・ともに育つ」精神を育成し、Well-being な環境を作る。 ※学校教育自己診断（生徒）における人権について学ぶ機会の肯定的回答（R4 -92%、R5 -89.8 %、R6 -90%）を令和9年度まで85%以上を維持する。 ※学校教育自己診断（生徒）における「先生は悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答（R4 -85%、R5 -86.4 %、R6 -90%）を令和9年度まで80%以上を維持する。 ※学校教育自己診断（生徒）における「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答（R4 -85%、R5 -83 %、R6 -84%）を令和9年度まで80%以上を維持する。 (2) 特別活動や生徒会活動を活性化させ生徒の主体性や協働生、自尊感情を育成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。 ア 部活動や文化祭、体育祭などを通して生徒の主体性や、人間関係を豊かに構築できる協働性を向上させる。 ※学校教育自己診断（生徒）における「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（R4 -84%、R5 -89.9 %、R6 -89%）を令和9年度まで85%以上を維持する。 ※学校教育自己診断（生徒）における「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（R4 -88%、R5 -93.0 %、R6 -92%）を令和9年度まで85%以上を維持する。 ※生徒向け修学旅行アンケートにおける満足度の肯定的回答（R4 -98%、R5 -98.8 %、R6 -98%）を令和9年度まで90%以上を維持する。 (3) 生徒が安全で安心して学校生活を送ることができるよう保護者等との連携にて学びを支える環境整備を行う。 ア ICT の組織的、効果的活用等、保護者との連絡体制を充実させる。 イ 美化活動等の推進 ウ 「防犯及び防災計画」を点検し、天災や火災、侵入者などに対する危機管理体制を充実させる。また、保健所や学校医、関係機関等との連携にて、食物アレルギーに係る事故防止や、熱中症や感染症等に係る対応を充実させ、保健・安全・衛生管理に対する指導の徹底を図る。 ※学校教育自己診断（保護者）における「家庭への連絡や意思疎通」（R4 -77.5%、R5 -74%、R6 -78%）を令和9年度まで75%以上を維持する。 ※学校教育自己診断（職員）における「事故・事件等に迅速・適切に対応」（R4 -77.8%、R5 -76.5 %、R6 -85.4%）を令和9年度まで80%以上を維持する。
4. 地域・保護者と連携した学校づくり (1) 広報活動を活性化し、本校の取組みを中学生や保護者、地域に発信する。 ア Web ページおよびブログを定期的に更新し、本校の取組みを地域・保護者に発信する。 イ 本校で実施する学校説明会をさらに充実させると共に、外部の学校説明会などにも積極的に参加する。 ※学習支援クラウドサービス登録者（R4 -100%、R5 -100%、R6 -100%）の在籍者に対する割合を100%とする。 (2) 地域との連携に取り組む ア KEYS（貝塚警察署との連携した活動）等のボランティア活動を発展的に継続させる。 イ 地域の学校等との連携を活発に行う。 (3) 関係機関と連携した保護者向け進路説明会の実施や保護者への実効ある進路情報の提供 ア 保護者向け進路説明会の方法や内容を充実させると共により効果的な方法にて進路情報を発信する。 ※学校教育自己診断（保護者）における進路に関しての情報提供（R4 -63%、R5 -62%、R6 -65.2%）を令和9年度まで60%以上を維持する。
5. 教職員の資質向上と意識改革 (1) 個々の教員が学校運営への参画意識をもって業務にあたる。

ア 運営委員会が中心となり日常的に OJT を推移する等、校内での情報共有や意思統一を図り組織目標の達成に向かう。 イ ICT 機器を組織的、効率的に活用し、事務作業、会議運営等の効率化等を図り、生徒と向き合う時間を確保する。 (2) 校内での教職員研修を充実させると共に外部で実施される研修等への積極的な参加を奨励する。 ア 教職員の資質向上をめざした研修を計画的に実施する。 イ 校外での研修等により、積極的に情報を収集するとともに校内での周知を行う。 (3) 校務運営の効率化を図る等、働き方改革の取組みを推進し教員が生徒と向き合う時間や自らの資質・能力の向上を図る時間を確保する。 ア チームで働く力を向上させ、働きやすい職場環境の整備に努める。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 7 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒に関して】 ・21 項目中 16 項目において、昨年度より肯定的な回答ポイントを上昇させている。 顕著に上昇させた項目は、[②学校図書館の図書などを利用する：25.4→37.1] であり、続いて [⑩学校生活についての先生の指導は納得できる：73.6→80.4] [⑭担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる：71.2→77.5] 等である。要因は、②については読書活動の意義理解にて授業で図書室を使用する機会が増加したこと、⑩、⑭については生徒と教員との信頼関係が構築されつつあることが要因と捉えている。 ・上記以外で、昨年度に比べ肯定的な数値が上昇した項目は[②授業はわかりやすい：78.4→83.2] [⑦学習の評価は、テストの点だけでなく、努力や授業に取り組む姿勢等をふくめて行われている：90.6→94.5] [③学校の授業レベルは、自分にあっている：84.3→87.7] である。数値の上昇とともに高ポイントを維持しているのは、それぞれの教科が生徒の教育的ニーズに対応した授業の展開及び学ぶ喜びやその意義を粘り強く伝えたことが要因と捉えている。生徒アンケートからは「説明が判りやすい」「その科目が好きになった」「判らなかったことがわかるようになった」等のコメントが確認できた。 ・[⑨学校全体として、クラブ活動は活発である：90.8→88.9]の項目が下降しているが加入率は 62.4 と昨年度 61.1 より増加させている。今後も人と人との交流を通じた多様な学びの場である部活動を働き方改革と連動させ活性化に向かいたい。 【保護者に関して】 ・13 項目中大半で肯定的なポイントを下降させている。 顕著に下降させた主な項目は、[⑥学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に、きめ細かく行っている：77.9→65.8] [⑦学校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている：75.7→67.9] [⑪学校は、教育情報について、提供の努力をしている。：73.7→60.3] である。一方で、生徒の[⑪学校は、進路に関する情報が十分提供されている：89.0→92.0] 教職員の[②⑥教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。：77.5→81.1] とポイントが上昇しており、保護者の回答との乖離が見られる。今後、口頭及び ICT をより効果的に活用し、提供する情報の内容や時期等の研究を深め改善に取り組みたい。又、回答の「⑤判断できない、よくわからない」の数値が上昇傾向にあり課題として捉えている。 ・[⑫学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。：53.4→54.8]と微増である。今後、更に魅力ある学校づくりを推進しチーム貝塚南の絆を深めるよう努めたい。 【教職員に関して】 ・27 項目中 17 項目において、昨年度より肯定的な回答ポイントを上昇させている。昨年度の 16 項目の上昇に引き続き、レジリエントな組織が完成しつつある。 顕著に上昇させた項目は[⑭到達度の低い生徒への学習指導を、全校的課題として取組んでいる：50.0→70.3] の数値が大きく上昇している。これは、生徒理解と誰一人取り残さない教科、学年等、組織としての取り組みが要因と捉えている。 ・数値の下降は、[⑭本校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている：77.5→67.6]の項目であるが、信頼関係に基づく支援や指導は実践されており、生徒[⑩学校生活についての先生の指導は納得できる]の受け止めは 73.6→80.4]と上昇させている、カウンセリングマインドの捉え方に若干の差が生じたのではないかと捉えている。今後、研修等を実施し、その意義理解に学校として取り組みたい。 【全体として】 ・今年度の診断結果より、Well-being な環境づくりが浸透し概ね生徒との信頼関係が構築されつつある。ただし、生徒と保護者の受け止めの乖離は否めない。今後も生徒、保護者、地域の教育的ニーズの把握に努めるとともに、国や本府の動向を踏まえ、改善・改革を繰り返し、信頼される学校づくりに邁進したい。	【第 1 回学校運営協議会 令和 7 年 7 月 30 日】 *各部署からの報告について ・教師と生徒の距離が近い面倒見のいい学校という特色をアピールしよう。 ・差別化を強調する時代になった。制服自由化とかどうか。SNS の活用も。 ・検定受検料の補助があるのは P R ポイントでは。 ・自分が通っているときは楽しい学校ではあった。「3 年間で伸びる学校」をアピールできないか。 ・同窓会も来年 50 周年。地域への浸透等に協力します。 *府立高校改革グランドデザインについて ・エントリーシートの評価の観点について、評価基準がよくわからないから受験せずに私学へとなるかもしれない ・50%も枠があるなら地元貝塚枠で合格させることができればいいのですが。 ・我々協議会委員も定員が割れないことを祈っている。 ・入試も中学生にわかりやすく、説明に行ってあげるといいかも。保護者のイメージ戦略（楽しい学校）もアピールを。 【第 2 回学校運営協議会 令和 7 年 11 月 26 日】 *第 1 回授業アンケート分析結果について 回答の全平均は 3.32 から 3.31 と高止まりしている。生徒の取り組み 1・2 が-0.1 で微減。生徒の興味関心に応えたり、知識技能が身についた実感は微増。 *令和 7 年度の学校経営計画 進捗状況について ・中期的目標 1（確かな学力の育成） に関して ・中期的目標 2（夢と希望を持ち、自己実現と豊かな社会創造に積極的に取り組む生徒の育成)に関して (1)高大連携を深めている。大学見学会（今年度は大和大学、阪南大学）を実施 (2)探究的な学びとして「貝南サミット」を実施中。1 年生は 12 月 23 日に外部施設で優秀作の発表を実施予定。 (3)国際理解教育として、マレーシアの高校来校、貝塚市の国際交流事業に参加、実用英語検定 受検の奨励、2025 グローバル体験への参加、関西国際空港での実践的英語体験学習 ・中期的目標 3（安全安心で魅力のある学校づくり） に関して (2)特別活動（体育祭・文化祭・修学旅行）実施後のアンケートで、肯定的回答が増えている。 (3)防災・減災訓練の実施や「防災ボランティア」事業に生徒を派遣し、活動や発表を行っている。 ・中期的目標 4（地域・保護者と連携した学校づくり） に関して (1)夏のオープンスクール参加 240 名、秋は 160 名の参加（中学生と保護者） (2)引き続き KEYS（貝塚警察署との連携したボランティア活動）の活動、隣接保育園の防災訓練協力、美術部の泉佐野第三中学校との交流、等を実施している。 ・中期目標 5（教職員の資質向上と意識改革） に関して - 教員の超過勤務について、月間 80 時間以上の教員が昨年 20 名から今年度 10 名に減少した。総時間数も減少傾向にある。 *授業見学の感想 ・元気があってよかった ・英語の授業、会話が弾んで活気があった。 ・自分の意見をしっかり持って発表していたのが印象に残った。先生方の努力のおかげだと思います。 *その他の意見 ・人権教育は生徒に考えさせるのが重要。 ・進路指導に関して、早いうちに大学見学に行くと効果がたかいのではないかな。 ・生徒指導に関して、遅刻・欠席の数値が増えていることが心配。引き続きを指導をお願いします。 ・教室の照明が暗いので、蛍光灯から LED 化を。 ・働き方改革：表向きには減っているようだが、見えない部分や持ち帰り等があるなら、改善をお願いします。 【第 3 回学校運営協議会 令和 8 年 2 月 4 日】 *令和 7 年度学校経営計画 自己分析 ・学校教育自己診断の結果、生徒（27 項目中 16 項目）と教職員（27 項目中 17 項目）の数値が上昇しているが、保護者の受け止めが下降している。原因を究明し改善を図りたい。 ・自己評価に関しては、ほぼすべての項目が達成され、高い値で安定している。 ・ストレスチェック集団分析の結果より、健康的な職場環境が確立しつつある。 *令和 8 年度学校経営計画 令和 7 年度の結果を元に「強み」を伸ばし「弱み」を克服しより信頼される学校づくりに向かいたい。 ＜学校運営協議員の意見＞ ・令和 7 年度の各項目の数値が良く高止まりの感であり、更なる上昇は難しいので、このまま維持できるように頑張ってください。保護者の受け止めも様々なので、あまり気になさらないで良いかと思います。 ・8 年間来ているが、いい学校だと思っている。今後の存続もお願いしたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R6年度値]	自己評価
1 確 かな 学 力 の 育 成	(1) 「主体的・対話的・深い学び」を追究した学力向上 ア「生徒に育成したい資質・能力」「めざす授業」の実現に向けて	(1) ア・「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」を全教職員で共有し、授業力の向上を軸にその実現に向かう。	(1) ア・授業アンケートの結果平均ポイントを 3.2 以上 [3.31]	(1) ア・授業アンケート結果、第1回、第2回の平均ポイントが 3.34 となり目標を達成した。総合的に学びの課程が完成しつつある。今後、個別の学び、協働的な学び、一斉学習のバランスの工夫と共に、学ぶ喜びやその意義を粘強く生徒に伝え更なる改善に努めたい。(○)
	イ 学力向上をめざした取り組み	イ・授業力向上の取組み（研修、相互授業観察、研究授業など）を計画的に実施する。 ・ICT 機器を効率的に活用した授業の研究を深める。 ・授業を通して学習習慣の定着を図る。 ・図書室の積極的な活用と生徒図書委員活動を活性化させるなど、読書活動を推進し読解力を向上させる。	イ・教員相互の授業観察を年間延べ 50 回以上[87 回] ・研究授業を年間延べ 5 回以上 [16 回] ・学校教育自己診断(生徒)の「視聴覚教材や ICT が効果的に活用されている」の肯定率 80%以上[86%] ・基礎学力調査(9 月実施分)の 1 日あたりの学習時間 1 時間以上の割合 1 年、2 年 20%以上[1 年 20%、2 年 16%] ・校内読書感想コンクールの継続実施。図書室の活用の奨励。生徒図書委員会の活動を昨年以上とする。[3 回]	イ・学力向上のため教職員相互の授業見学等を奨励し授業力の向上に努めた。相互授業見学は 68 回となり目標を達成した。(○) ・研究授業は 7 回の実施である。(○) 今後も継続させ、授業力の更なる向上に努めたい。 ・学校教育自己診断(生徒)の「視聴覚教材や ICT が効果的に活用されている」の肯定的回答が 85%となり目標を達成した。今後も 1 人 1 台端末の活用をより推進し学びの深化に努めたい。(○) ・教科指導において宿題を課すなど、学習習慣の定着努めた。基礎学力調査の結果、1 日あたりの学習時間 1 時間程度以上の割合が 1 年生―14.2%、2 年生―13.25%であり目標に達していない。今後も全教育活動を通して、学ぶ喜びやその意義を伝え、学習習慣の定着に努めたい。(△) ・読書感想文希望者にて取り組んだ。コンクール参加までのレベルに達しなかった。読解力や探求力向上のため図書館通信等にて図書館活用や読書活動の奨励に努めた。生徒図書委員会の活動も 3 回実施した。(○) 学校教育自己診断(生徒)の「図書館の図書などを利用する」の肯定的回答が 37.1%となり昨年度 25.4%を大きく上回った。今後も読書活動を推進し確かな学力の向上に努めたい。(◎)
	ウ 授業アンケートの効果的活用	ウ・授業アンケート実施後、「授業アンケート結果」を活用するなど、各教員が結果を分析し、授業改善に努める。 ・スクールミッションやスクールポリシーに対応した特色ある教育課程の研究を深める。	ウ・学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定率 75%以上[78%] ・教務部が主体となり、各教科において、特色ある教育課程についての協議を昨年以上実施する [3 回]	ウ・学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定的回答が 83%となり目標達成とともに高いポイントを獲得した。今後も生徒一人ひとりの教育的ニーズを深く把握し更なる進化に努めたい。(◎) ・入試改革を踏まえ、各教科において教育課程について 4 回協議を実施した。(○)

府立貝塚南高等学校

2 夢と希望を持ち、進路実現に積極的に取り組む生徒の育成	(1) 生徒の希望する進路の実現 ア 関係機関との連携を深め3年間を通した進路指導に取り組む イ 生徒情報の共有と、計画的な学習指導等の実施	(1) ア・保護者等、多様な主体と連携し3年間を見通した実践的なキャリア教育を推進する。 イ・定期考査、基礎学力調査等の結果から生徒の学力推移を分析する。又、学習支援クラウドサービスを活用するなど学年、教科、分掌間で情報共有を図り、進路指導に活かす。 ・進路便りの発行など保護者との情報共有に努める。 ・進路目標達成に向け、教科、分掌、学年や外部機関との連携を深め多様なニーズに対応できる説明会や講習等を計画的に実施する。	(1) ア・HR等を活用した学年全体での取組み（外部講師による講演を含む）を昨年並みとする。[1年6回、2年11回、3年11回] イ・学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定率70%以上[75.7%] ・学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定率85%以上[89%] ・進学講習は全体で昨年以上実施。[114回] 教育支援クラウドサービスによる学習動画、WEBドリル等の活用を加えて、より個々の状況に合わせた指導を進める。	(1) ア・PTA 社会見学会を外部より講師を招いた進路講演会に変更する等キャリア教育を充実させた。HR等を活用した取組みは、1年23回、2年11回、3年5回であった。今後も多様な主体と連携を深めすべての生徒の自己実現に努めたい。(○) イ・校内模擬試験や資格取得受験の奨励、分野別講習会の開催、進学就職面接指導等、多様なニーズに対応し自己実現を支援した。学校教育自己診断（保護者）の「将来の進路や職業について適切な指導」における肯定的な回答は68%であり目標に達していない。今後、生徒及び保護者のニーズの把握をより深め信頼の獲得に努めたい。(△) ・学校教育自己診断（生徒）の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答は92%となり目標を達成した。今後もよりタイムリーな情報の共有、提供に努めたい。(◎) ・進学講習は合計81回の実施となり目標に達していない。今後も充実させ、進学実績の向上に努めたい。(△)
	(2)コミュニケーション能力の育成 ア探究的な学びの充実	(2) ア・あらゆる教育活動を通じて、他者と協働して課題を発見・解決しようとする活動や、情報収集、整理、分析、まとめ、発表する活動を行う。	(2) ア・学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定率80%以上[86%]	(2) ア・貝南サミット（総合的な探究の時間の総括：プレゼン大会）を発展的に継続する等全教育活動を通して探究学習の充実を努めた。学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答が86%であり目標を達成した。今後も自校の特色として発展的に継続させたい(◎)
	(3)グローバル人材の育成 ア国際理解教育の推進	(3) ア・国際交流、SDGsの視点を踏まえた授業、HR、総合的な探究の時間、特別活動等の実施及び関係機関と連携し異文化に触れる機会を確保するなど、国際社会に貢献できる能力を育む。 ・英語運用能力の向上を図る。	(3) ア・学校教育自己診断(生徒)の「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定率80%以上[84%] ・英語検定受験者数を昨年並み[88名]	(3) ア・貝塚市主催の青少年国際交流事業に有志生徒が参画し、アメリカ合衆国カルバーシティの生徒との交流、大阪観光局との連携によるマレーシアとの学校間交流、2025グローバル体験プログラムへの有志生徒の参加、関西国際空港での実践的な英語体験学習等、国際理解教育を積極的に推進した。学校教育自己診断(生徒)の「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答が85%となり目標を達成している。(◎) ・英語検定が329名の受験者となり目標を大きく上回った。特に、第1学年団が自己実現等、生涯を見通した英語運用能力の重要性を深く浸透させ多くの生徒が主体的にチャレンジした。今後も多文化共生社会の実現に向け英語検定の受験を奨励したい。(◎)

府立貝塚南高等学校

3 安全安心で魅力のある学校づくり	(1) 生徒の規範意識の醸成と支援体制の充実 ア 子ども理解 (アセスメント) 力を充実させ、生徒の規律性を育む。	(1) ア・全教育活動を通して生徒理解に努め、正確な情報の共有を図ると共に、成長と支援ニーズのアセスメントとそれに基づくプランニングを充実させる。又、信頼関係と生徒指導提要に即した支援、指導を徹底し、社会的自立に向けた能力や態度を育成する。	(1) ア・学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定率 80%以上[92. 7%]。 ・発達支援の生徒指導体制を充実させる。 ・年間述べ遅刻回数昨年以下[3576 回]	(1) ア・信頼関係に基づく教育活動の確立をめざし生徒理解及び保護者との連携を徹底した。学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定的回答が 91. 9%であり目標を達成し、高い肯定ポイントを維持できた。今後も生徒理解及び保護者との連携をより深め個別最適な支援に努めたい。(◎) ・前例踏襲の画一的な生徒指導を脱却し、社会通念及び個々の特性に応じた生徒支援を実践した。(○) ・遅刻数が 4944 回となり目標に達していない。今後も社会的自立に向け、遅刻防止に努めたい。(△)
	イ 教育相談・支援体制の充実	イ・SC、SSW、関係機関等との連携を深め個々の教育的ニーズに応じた支援を充実させる。 ・不登校対策として OSAKA CYCLE 5 つの C を推進する。	イ・学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的率 80%以上[90%] ・就学支援会議、ケース会議の開催。	イ・全教育活動通して生徒理解を深め、成長と支援の観点を軸に粘り強い対応を実践した。学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答が 90% となり目標達成とともに高い肯定率を獲得した。(◎) ・大阪サイクル5つのCを推進し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を充実させた。就学支援会議や主治医、関係機関、SC、SSW との連携は都度、地区の支援教育サポート教員を含めた定期的なケース会議を年に 3 回開催した。(○) ウ・人権 HR や外部講師を招いた講演会の実施等全教育活動を通して多文化共生社会実現に向け意識の醸成に努めた。学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定的回答が 90%であり目標達成とともに高い肯定率を維持した。入試改革に関するアンケート等より Well-being な学校づくりの浸透も伺える。(◎) ・全教職員が一体となり、他者理解や他者への思いやりの醸成に努め未然防止に努めた。又疑い段階において、対策委員会を積極的に開催し、不適切な状況の阻止、拡大及び再発防止、人間関係形成能力の向上に努めた。学校教育自己診断(生徒)の「先生はいじめに真剣に対応してくれる」の肯定的回答が 91%となり目標達成とともに昨年度を上回る高い肯定率を獲得した。(◎) 今後も、生徒、教職員が多様性や共に生きる社会について学びを深め、いじめの撲滅と共生社会の実現に努めたい。
	ウ 互いの違いを認め合い、「共に学び、共に育つ」精神を育成する。	ウ・多様性やともに生きる社会を理解できる人権教育を推進する。 ・いじめ事象の発生や深刻化を防ぐとともに、いじめを許さない生徒を育成し、その根絶に向かう。	ウ・学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定率 85%以上[90%] ・学校教育自己診断(生徒)の「先生はいじめに真剣に対応」の肯定率 80%以上[89%]	(2)
	(2) 特別活動を通じ、主体性や協働生の育成及び豊かな高校生活の実現 ア 大阪モデルに準じた部活動の活性化及び 学校行事の活性化	(2) ア・人と人との交流を通じた多様な学びの場として部活動の活性化を図る。 ・校外学習、体育祭、文化祭等について生徒の自主性、自立性を育成できるよう内容を充実させる。	(2) ア・体験入部を継続し部活動加入率 55%以上[61. 1%] ・学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率 85%以上[89%] ・「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率 85%以上[92%] ・学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答 80%以上[84%]	(2) ア・部活動加入率が 62. 4%であり目標を達成した。今後も部活動の意義の醸成を図り、大阪モデルに準じた活性化に努めたい。(○) ・生徒の主体性、協働性、帰属意識等の向上をめざし学校行事の活性化に努めた。学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答 90%であり目標達成とともに高い肯定率を維持した。来場者が 896 名であり、昨年 902 名並みを維持した。(◎) ・学校教育自己診断(生徒)の「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答が 92%であり目標達成とともに高い肯定率を維持した。(◎) ・学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答が 85%であり目標達成とともに昨年度を上回る肯定率を獲得した。今後も個々の教育的ニーズの把握に努め、魅力ある学校づくりに努めたい。(◎)
	(3) 保護者等との連携及び学びを支える環境整備 ア 保護者との連携 イ 美化活動等の環境整備	(3) ア・ICT の組織的、効果的活用等、家庭との連絡を充実させ、協働にて生徒理解に努め、個別最適な支援を実践する。 イ・環境美化への意識を高め清潔で整備された教育環境を維持する。	(3) ア・学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定率 75%以上 [78%] イ・学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定率 60%以上[70%] ・保護者との連携による内外美化活動の継続[3 回]	(3) ア・ICT や口頭、紙媒体を併存的に活用し教育情報の発信に努めた。学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答が 65. 8%であり目標に達していない。今後も様々な教育情報の提供内容、方法、時期等の研究を深め信頼される学校づくりに努めたい(△) イ・学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定的回答が 71%であり目標を達成した。(○) ・保護者との連携による校内美化活動及び校外美化活動を合計 3 回実施できた。又、校長による校舎内外の巡回等、日常より学びを支える環境整備に努めた。(○)
	ウ 防犯および防災、保健、安全、衛生管理に対する備え及び指導の徹底	ウ・関係機関との連携により防犯及び防災計画を作成すると共に、日常より自然災害や感染症、熱中症、食物アレルギー等に対する意識を醸成し、安全確保、安全管理、安全教育を徹底する。又、災害や事故発生時における迅速かつ適切な対応に努める。 ・危機管理に対する様々なガイドラインの精読や法的対応の理解を含めた注意喚起等を断続的に行い教職員間における危機管理意識を向上させる。	ウ・学校教育自己診断(職員)の「事故事件に迅速、適切に対応」の肯定率 85%以上[85. 4%] ・学校教育自己診断(職員)の「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している」の肯定率 80%以上[78. 1%]	ウ・学校育自己診断(職員)の「事故、事件に迅速適切に対応」の肯定的回答が 84%となり目標に達していない。ただし、予告なしの避難訓練の実施や学校安全総合支援事業推進校の指定を受け、有志生徒が災害ボランティア活動に参加する等、防災意識の醸成に努めた。今後も、防災、保健、安全衛生管理に対する意識をより深め、事故、事件発生時のより適切な対応に繋げたい。(○) ・学校教育自己診断(職員)の「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している」の肯定率が 78. 4%となり昨年度 78. 1%より向上しているが目標に達していない。ただし、校長、教頭、教務部長等の注意喚起や教職員研修の実施等により不祥事は発生していない。今後もより研究を深め、適正管理に努めたい。(○)

府立貝塚南高等学校

4 地域・保護者と連携した学校づくり	(1) 広報活動の活性化 ア 学校 Web ページ、ブログ等による情報発信	(1) ア・広報委員会が中心となり、オープンスクール等を継続すると共に、学校 Web ページや様々なブログの更新を活発に行い開かれた学校づくりをより推進する。	(1) ア・様々なブログの更新合計、年間 200 回以上[554 回] ・学校説明会を 4 回開催する。	(1) ア・同窓会と連携し電車内や主要駅での広報ポスター掲示、学校案内の一部刷新、中学校に出向き 2・3 年生を対象とした説明会の開催、地元小学校 3・4 年生との交流、貝塚第四中学校 1 年生との交流、中学校別入学者数の研究、更に、様々なブログを積極的に更新し戦略的な広報活動を実践した。校長ブログ 65 回、スクールライフ貝南ブログ 103 回、生徒 SNS 等 320 回合計 488 回の更新であり目標を上回った。(○) ・卒業生や在校生に協力を得る等、生徒教職員が一体となり学校説明会を昨年度並みに実施した。特に、12 月 26 日には泉南地区中学校進路担当者会議が自校で開催され効果的な広報活動が展開できた。今後も公立高校の強み(近い・安い・面倒みが良い)をより高め府民の信頼獲得に努めたい。(◎) イ・教育支援クラウドサービスへの登録は100%を維持している。(○)
	イ 学習支援クラウドサービスによる情報発信	イ・学習支援クラウドサービスを有効に活用し、よりタイムリーに保護者等への情報発信を行う。	イ・保護者懇談等を通じて、すべての保護者の登録を確認する。	
	(2) 地域との連携 ア ボランティア活動の発展的継続	(2) ア・KEYS（貝塚警察署と連携した大阪府内唯一のボランティアチーム）の活動を深化させると共に、ボランティア意識の向上を図る。	(2) ア・KEYS の活動を継続して実施する。[6 回]。その他ボランティア活動を推進する。	(2) ア・「KEYS」の活動に 18 名の生徒が参画した。非行防止活動、農業体験、児童虐待防止キャンペーン、海開きイベント、社会を明るくする運動、等 6 回の活動を通して地域社会へ貢献すると共に、ボランティア意識を向上させた。(○)
	イ 地域の学校等との連携	イ・中学校等との交流、近隣の保育園での保育体験実習や防災避難訓練時の連携の継続等、地域との連携を充実させる。	イ・中学校や地域との連携活動を継続する。[中学校 33 回 地域 7 回] ・保育体験実習を継続する。[7 回] ・防災避難訓練への協力を実施する。	イ・部活動における合同練習会や広報活動のための出前説明会を含み、中学校と 29 回、地域と 11 回の連携活動を継続した。(○) ・近隣保育園での保育体験実習を 10 回実施した。(○) ・保育園の避難訓練への協力を継続実施している。生活と保育選択生徒を参加させる等、学校及び地域ぐるみで防災意識を高めている。(○)
	(3) 保護者との連携 ア 保護者向け進路説明会や情報提供及び資格取得制度の充実	(3) ア・保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画する。 ・進路だより等の配布とともに、学習支援クラウドサービス等、ICT を組織的、効果的に活用し保護者への情報提供を充実させる。 ・資格取得を奨励し、将来を見据えた自主性、自立性を育成する。	(3) ア・学校教育自己診断(保護者)の「学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定率 70%以上[75. 7%] ・学校教育自己診断(保護者)の「進路に関しての情報提供」の肯定率 60%以上[65. 2%] ・検定受験者数 200 名以上 [258]	(3) ア・日常的教育情報の提供、懇談期間を活用しての説明会の開催。社会見学会を進路説明会に変更する等、すべての生徒の自己実現をめざし進路指導体制を充実させた。学校教育自己診断(保護者)の「学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定率は 68%であり目標に達していない。今後、生徒及び保護者のニーズの把握をより深め信頼の獲得に努めたい。(△) ・学校教育自己診断(保護者)の「進路に関しての情報提供」の肯定率は 60. 3%であり目標を達成した。今後も ICT をより効果的に活用する等タイムリーで精度の高い情報の提供に努めたい。(○) ・保護者との連携で資格取得補助制度を継続し資格の取得を奨励した。受験者数は 401 名であり目標を大きく上回った。今後もチャレンジ精神の向上と自己実現支援のため継続して取り組みたい。(◎)

府立貝塚南高等学校

5 教職員の資質向上と意識改革	（１） 個々の教員がスクールミッションを理解し、学校運営に参画する意識をもって業務に当たる。 ア 教員間での情報共有を充実させる等、チームで働く力を育み組織目標の達成に向かう。 イ ICT 機器を効果的に活用し校務の効率化を図る	（１） ア・会議に加え ICT を効果的に活用し、タイムリーに情報の共有を図ることにより同僚性を高め学校力の向上に努める。 イ・教職員の ICT 活用能力の向上に努め校務の効率化に繋げる。	（１） ア・学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができている」の肯定率 80%以上[85.4%] イ・学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率化を図ることができた」の肯定率 80%以上[85%]	（１） ア・様々な場面にて学校の存在意義を発信し、生徒や教職員をはじめ関係者の意思疎通に努めた。学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができている」の肯定率が84%であり目標を達成した。学校運営への参画意識が高まり学校力の向上が伺える。 (○) イ・ICT に関する研修会や教職員相互にて学ぶ機会を設定しより効率的な活用に努めた。学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率を図ることができた」の肯定率が81%であり目標を達成した。(○)
	（２） 実効ある教職員研修の実施と相互授業見学や勉強会の充実、及び外部の研修への積極的な参加を奨励し教師力の向上を図る。 ア 教育改革やニーズに対応した教職員研修の実施 イ 他校への授業見学等や研修会への参加	（２） ア・資質向上をめざした計画的な教職員研修及び、教員相互における勉強会の実施 イ・外部への授業見学や研修会等への積極的な参加を奨励する。	（２） ア ・教職員研修 10 回以上[12 回] ・勉強会 10 回以上[14 回] イ ・外部への視察等を 2 回以上行い、校内での研修報告会を実施する。[9 回]	（２） ア・社会の変化や多様な教育的ニーズに対応した資質、能力向上のため計画的に教職員研修を実施した。又、教職員が共に高め合う職場環境づくりに努めた。職員研修 6 回、学年集会型 3 回、HR 型 1 回、全校集会型 3 回、合計 13 回の実施となり目標を達成した。(○) ・相互勉強会は、入試改革に関する協議 7 回を含め 14 回の実施となり目標を達成した。(○) イ・外部への研修会等への参加は 7 名 8 回となり目標を達成した。(○)
	（３） 働き方改革の取り組み ア 労働安全衛生体制の充実	（３） ア・環境整備と共に、支え合う意識を醸成し心身共に健康な状態が持続できる温かい職場環境の構築をめざす。 ・部活動方針の遵守や時間外超勤務者へのヒアリングを充実させるなど、働き方に対する全教職員の意識改革に努める。	（３） ア・ストレスチェック結果における職場のサポートを前年度より改善させる。[110] ・時間外在校等時間が月 80 時間以上の教職員数を 32 名以下とする [32 名]	（３） ア・ストレスチェック結果における総合健康リスクが 99 となり昨年 118 より大きく下降した。又、全国平均 100 を下まつた。同時に職場のサポートについても、96 となり昨年度 110 を大きく下降させた。Well—being な学校づくりが浸透しつつある。今後も健康的な職場環境を維持できるよう支え合う組織体制を更に進化させ職場環境の改善に努めたい。(◎) ・時間外在校等時間 80 h 越対象者の年間累計合計が 14 名となり昨年同 32 名より大きく減少させた。目標を大きく上回った。今後も全教職員に対して働き方に対する意識改革を図ると共に、効率的な業務推進に関する資質、能力の向上を図り、時間外在校等時間の縮減に努めたい。(◎)